

10周年記念誌

# 銀 齢

社団法人 町田市シルバー人材センター



# 働く喜びと 社会参加



サルビア / 市の花



ダリア園



リサイクル文化センター







けやき/市の木

井ヶ谷公園



街路樹



国際版画美術館

題字 **銀 齡** 前 名誉会長 大下 勝正氏 筆  
前 町田市長

会長あいさつ	1
関係諸団体代表者ご祝辞	4
設立趣意書	8
シルバー人材センターの仕組み	9
地区別会員数と年齢構成	10
10年のあゆみ	11
事業実績の推移（グラフ）	15
会員の活動（写真）	21
独自事業（牛乳パック再利用）スタートまでのあゆみ	28
10周年記念行事	30
広報（機関紙・市広報・報道機関）	38
事務局	40
任期一覧（役員・班長・委員会委員）	41
受賞者名簿	47
記念行事関係者名簿	49
あとがき	50

---





社団法人  
町田市シルバー人材センター 会長  
林 清 美

## 設立10周年を迎えて

昭和55年3月、東京都の42番目の事業団として弧々の声をあげた町田市高齢者事業団が、設立10周年を迎えましたことは、この上ない喜びであります。

設立に当たりましては、各界のご支援と政治・行政の絶大な援助を頂きました。当時、856名の会員は、このご期待に報ゆるべく試行錯誤を繰り返しながら、ここに10年の歳月を経たのであります。この間、55年12月には社団法人として、社会的地位の確立に一步を進めました。

故大河内一男先生の胸に築かれた高齢者事業団の設計図は、昭和61年の法律として実現の端緒を得たのであります。

シルバー人材センターの目ざすものは、国の行政や経済政策の背後におかれた文化理念といたしまして、現在の高齢者の人々の心のうちに導かれた、その生活の指針・規律の育成であります。また、生きている慰めと、生き甲斐を与えようとしたものであります。

それは、在来の日本社会の精神の光を拡大して、知性の普遍性によりまして、人類の生

命の進みゆく新しい道を照らし出したものと思います。

こうした意識の転換に、一番大きく作用しているのが、人口の増加と人口構造の変化であります。世界において、これほど急激に人口構造が変化しながら、生活水準をあげているのは、日本だけです。それは、例外だと思えます。大変な変革であって不思議ではありません。しかし、その基本は、あくまでも、保守ないし、保守的向上であります。高齢者人口の増加に対応して醸成された革新でないのです。

つまり、社会の基本的な革新を求めるのではなくて、時代とともに生じた新しい現象に柔軟に対応した革新であると理解いたします。

このような大河内先生の思想を受けついで、我々は、その実践に努力してまいりました。そして、この考え方に理解を示された1,800名の方が入会され、また、退会された方は、1,558名であります。ことし4月1日現在、会員は、1,098名であります。まだまだ私達の考え方が、社会に定着していないことを反省し

ております。

この10年間の事業の推移をみますと、仕事につかれた会員の延人員は、568,287人、年間平均56,000人余りで、1人の会員が年に6回、2ヵ月に1日仕事をしたこととなります。これは目標より低い数字です。

また、事業収入は、1,852,531,248円でありました。

この10年間に、国、東京都、町田市より援助して頂いた補助金は、総計304,250,436円であります。このほかに、町田市からは事務所の無料貸与や事業運営の指導などの手厚いご援助を受けて、現在に至ったのであります。

また、会員の意向を事業運営に反映するために、総会を22回開催いたしました。

過去、10年間いろいろと錯誤を繰り返してきましたが、創立の主旨を生かし、世間にその存在価値を問う一つの事例をあげますと、家事援助事業というのがあります。その内容は、一口で言えば、身障者の方の家事のお手伝いでありまして、こうした仕事の性質上、特にすぐれた奉仕の精神とボランティアの気持ちがないと続けられない仕事であります。そして、それは当然に、寝たきりの老人の援助にもつながる仕事でもあります。

この仕事は、昭和56年から実施しております。初めは担当の職員の養成より手をつけ、現在は、会員が自主的に運営しております。

その実績と40名の女性会員のチームワークの質の高さは、全国的にも上位にあります。

全国シルバー人材センター協会も、これを高く評価し、このたび、その報告書を発行しております。また、昨年6月22日の総会において、このサービスの強化を決議いたしました。これは、会員と事務局と市役所が一体となった、見事なチームワークの賜物であります。一昨年公布されました、社会福祉法などによる高齢者対策よりも、現実は一歩進んでいることを身近に感じているのであります。

また、会員の総数と実際に仕事をした会員数の比率は、一般には男性会員が高いのですが、近年になり、逆に女性会員の就業比率が高い現象は、町田の一つの特徴であります。

さて、21世紀までに、年齢構成がますます高齢化してゆきます。そして、日本での問題点は、年齢による意識の典型的変化がはっきりしていることです。町田市は、高齢者社会に他の市部よりも早く入る見込みです。

こうしたなかで、このシルバー人材センターの社会的責任をどのように果たすべきか、また、社会が私達にどのように期待しているだろうか。こうした自覚と反省をし、着実な対策をたてる時期にきていると感じております。

ここに、10周年を迎え、21世紀のシルバー人材センター活動の根幹になる、何よりも実践を重んじ、自ら行動する、信念のある高齢



者であることを望んでおります。そこに、主体性が確立され、日々の生きる喜びがあり、生きる感謝の念が生まれてくると信じます。

先日、10周年記念事業策定委員会において、長期構想の一端として、次のようなことを討議し、今後の事業運営の指針とする予定であります。

まず、理事会の将来像として、事業の中心をなす理事会に人を得なければ、改新は出来ません。その時々時代の感覚のある、行動する役員をもって構成することが肝要であります。そして、円満な常識の士によって、センターの核を構成すべきと考えます。現在の高齢者の仕事は純粋な経済行為ではなく、一種の精神的充足をする行為であります。具体的に言いますと、町田では、要するに、シルバー人材センターの目標を理解した、闘争型で世話人タイプの方が役員には適任と見ております。

次に、自ら仕事の場をつくる独自事業については、基本は、会員の創意工夫により社会参加をし、自らの手で開拓してゆく勇気と独創力のあることが大切であります。その実現には、町田市における社会システム、環境システムなどとの高い次元における調和をはかる良識を期待しております。

更に、シルバー人材センターは、市民と遊離し、独善的であっては、存在価値はありま

せん。そのため、市民の方々との絶えない交流の場を設け、意志の疎通をはかることが大切と考えるのであります。

このような考えを、現実に具体化するには、いろいろな方法があるでしょうが、まず、会員の交流の場や作業の場として、分室を配慮し、新しい仕事の分野や高齢者の作業に適した用具の開発、改良を進めることであります。

しかし、このようなことは、一朝一夕に出来ることではありません。常に、その場、その身になって、各自が、真剣に考え、試行し、経験と感性により、培われてゆきます。そして、取捨し選択して調査、研究のうえ実現するものであります。

そのため、役員・会員、更に管理の専門的手法については、職員の高度な研修を長期にわたり実施する必要があります。

今や、このような人材養成という形式による、シルバー人材センター型の情報蓄積をはかりながら、責任感の明確な組織を望むものであります。

以上、設立10周年を迎えたこの機会に、過去を省み、将来の構想の一端を披露いたしました。皆さまのご批判を頂ければ幸いと存じます。



## 設立10周年を祝して

町田市シルバー人材センターの設立10周年を心からお祝い申し上げます。

昭和55年3月に発足されて以来、着実な歩み続けられ今日を迎えられたことは、ひとえに会員の皆さまの真摯で誠実な働く姿勢と、結果としての確実な仕事が評価されているからだと思います。もちろん、センター職員の方々をはじめとする関係各位のご努力には深く敬意を表する次第です。

高齢化社会の到来が予見され、高齢者対策の充実が望まれる中で、働く意欲のある健康な高齢者の方々が、地域社会の活動と密接な連携を保ちながら、その経験・能力を生かし、共に働き、共に助け合っていくことはとても意義のあることです。

町田市高齢者事業団は、高齢者の働く機会を確保することで、生活感の充実や社会的地

位の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与することを目的にスタートされたわけであり、今日のように発展されたことは、私といたしましてもこの上ない喜びであります。

この7月には、名称も町田市シルバー人材センターと改められ、今後のより一層の発展・充実が望まれるところです。

期せずして、本市ではシルバー人材センター事務所の建替えを計画し、高齢者の方々の拠点作りのステップを踏みだしたところです。

皆さま方のお知恵をお借りしながら、より充実した施設を作っていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆になりますが、関係者各位のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。





## 祝 辞

社団法人町田市シルバー人材センター設立10周年記念誌「銀齢」が発行されるにあたり、町田市議会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

顧みますと、貴事業団が高齢化社会に向けて働く意欲のある高齢者に対する就労と生きがい対策をスローガンに、昭和55年3月6日に東京都で42番目の高齢者事業団として設立以来、はや10年の歳月が経過したところでありますが、この間、事業は順調に推移され、平成元年度実績では、契約金額で3億100万余円と、設立時の実の4.7倍と飛躍的な発展を遂げており、誠にご同慶にたえません。

また、本年7月2日付を以って、社団法人シルバー人材センター町田市高齢者事業団を社団法人町田市シルバー人材センターと統一名称に変更され、名実共に全国の仲間入りを果たされたことに対しても、重ねてお慶び申し上

げる次第であります。

最近では、牛乳パック再生利用の新規事業を積極的に開拓しておられるとのことで、今後共益々のご発展を期待しているところでありますが、会員の皆様には、その豊富な知識と技術、そして貴重な経験を社会のために生かされ、急速に進む高齢化社会に向かって、更にご活躍を賜りますことをお願い申し上げます。

町田市議会といたしましても執行機関ともども、高齢者の皆様に健康増進のための諸施策や就労生きがい対策の向上等、愛と心のかよった施策の充実に努力して参ります。

最後に、会員の皆様のご健康とご多幸を祈念し、貴シルバー人材センターの益々のご発展をお祈り申し上げ、設立10周年記念誌「銀齢」発行の祝辞といたします。



## 設立10周年を祝して

社団法人町田市シルバー人材センター設立10周年おめでとうございます。

シルバー人材センターが、高齢者の共働、共助の精神に基づいた新しい事業として、昭和50年に全国に先駆け東京に生まれてから今日まで、58の区市町村に設立され、ほぼ3万7千人の方が参加し、地域においていきいきと活躍されております。

町田市シルバー人材センターは、そのなかでも先駆的事業団として、昭和55年3月発足以来、幾多の御苦勞のなか役職員の方々をはじめ、会員皆様のご努力により、地域社会における高齢者の就業分野を担う団体として着実な発展をみせておりますことに心から敬意を表する次第です。

東京都は、平成元年11月、「東京の明日、ゆとり型社会」を取りまとめ、新しい社会システムの形成に向けて推進すべき長期的な高齢

社会対策を明らかにしました。平成2年3月には「高齢者就業システム検討協議会」から人生80年時代にふさわしい「高齢者就業システムの構築」の最終まとめの報告をうけております。

現在、この2つの報告の趣旨に基づき高齢者就業総合センター（仮称）の設置、シルバー人材センターの充実・強化等を進めておりますが、さらに、東京都は国、町田市及び財団法人東京都高齢者事業振興財団と一層密接な連携をはかりながら、21世紀に向けて新たにシルバー人材センターが、地域における高齢者の就業分野の中核として、会員を増大し事業活動が拡大できるよう、その体制整備等に力添えをしております。

さいごに、社団法人町田市シルバー人材センターの発展と会員皆様の御健勝を祈念して祝辞といたします。





## 『21世紀の地域社会を担う シルバー人材センター』をめざして

設立以来、貴シルバー人材センターがめざましく発展してきましたことは、会員の皆様はじめ役員並びに関係各位の並々ならぬ御努力が、その礎となっていることと御推察申し上げ、深く敬意を表する次第であります。

21世紀の本格的な高齢社会を目前にし、健康で働く意欲や能力を持った高齢者がますます増える状況にあつて、シルバー人材センター事業の果すべき役割は従前にも増して一層重要となつてきています。

シルバー人材センター事業は誕生以来、第一の段階として、高齢者事業団を都内区市町村に設置し地域社会に根ざすことを目標に、そして次の段階では事業拡大と事業の法制化を図ることを目指してきましたが、これらは確実な成果をあげることができました。

これからの1990年代は、21世紀を真に、活力ある、魅力ある高齢社会にするための貴重な期間です。

シルバー人材センター事業は、今日までの

大きな実績の上になつて、これまで以上に、この事業に参加する高齢者の希望に応じた働く機会を提供し、高齢者自身のいきいきとした生きがいのある生活の実現を推進していく必要があります。

そのためには、この事業の質・量ともの充実・拡大を図り、「21世紀の地域社会を担う」シルバー人材センターとして確立する必要があります。

そして、一人でも多くの高齢者が参加できる組織的な環境づくりをめざす、理念を踏まえた組織活動・事業活動を一層進めていくことが重要であります。

町田市シルバー人材センターにおかれても、日常の実践活動を通じて、組織活動上、事業運営上の課題を克服しながら、真に「21世紀の地域社会を担う」シルバー人材センターとして、この事業の充実・発展にむけて邁進されますことを期待しています。

## 設立趣意書

本格的な高齢化社会の到来を迎えて、健康な働く意欲のある高齢者が急速に増大してきているが、なかでも職業生活引退後にあつて、なお自らの経験と能力を生かして、働く機会をもとめる高齢者の増加がみられている。

このような状況のもとにあつて町田市高齢者事業団は東京都及び町田市の指導援助を受けながら、地域の働く意欲のある健康な高齢者の相互協力を基礎に自主的組織として昭和55年3月6日に発足した。

当事業団は地域社会に開かれた団体として地域住民及び地域諸団体の協力を得ながら高齢者市民の働く機会の確保と福祉の増進に努めると共に、活力ある地域社会づくりをめざして活動を続けてきた。

年を重ねると共に、社会の高齢化が進むにつれ、本事業の対象となる高齢者も年々増加し、一方、地域社会の側からの当事業団に寄せる期待も増大し、事業活動は逐次拡充を遂げてきている。

国も国家的見地からこの事業についての重要性を認識し「高年齢者労働能力活用事業」(シルバー人材センター)としての国の施策に取り入れ推進するに至った。

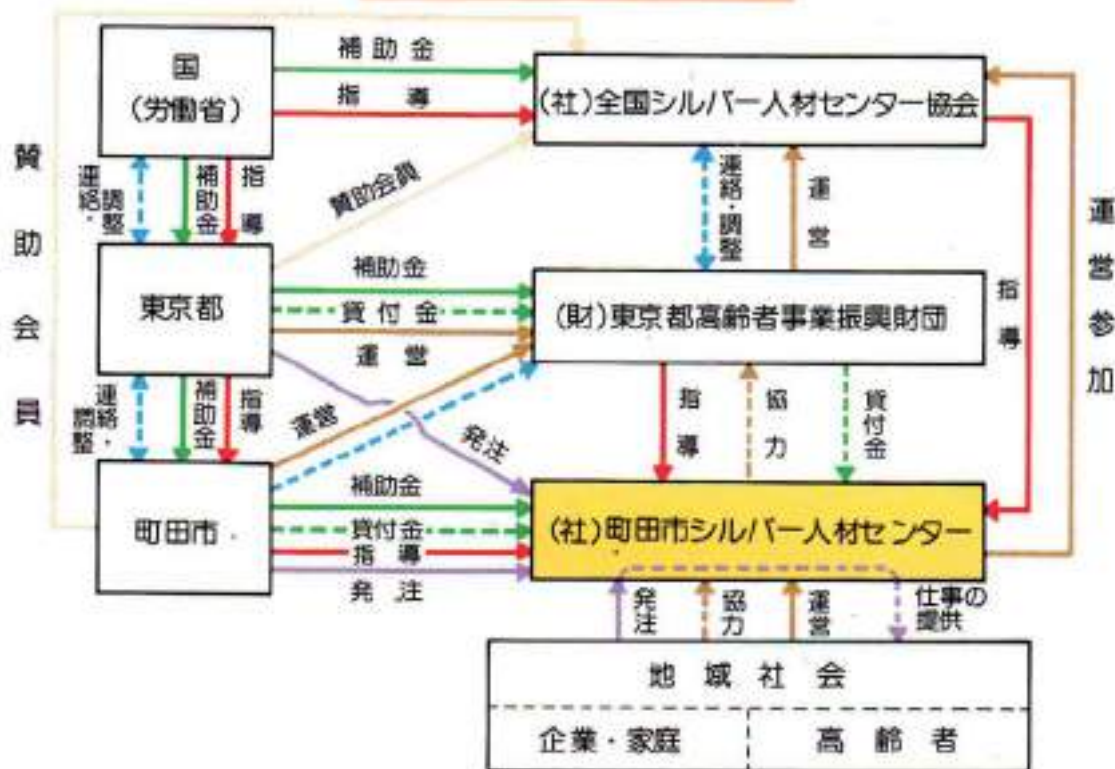
当事業団としては、この機会に今後における事業推進の展望にたつて、この事業のより一層の発展をめざす一環として、人格なき社団としての運営を社団法人化することにより地域高齢者の就業に関する各種事業を総合的に行い、これまでの事業の公益的・公共的性格を名実共に明確化し、法的安定を確保することとする。

さらにこのことを通じて、国の新しい施策との接合を果たし、本事業の一層の進展を期するため、「社団法人シルバー人材センター町田市高齢者事業団」を設立するものである。

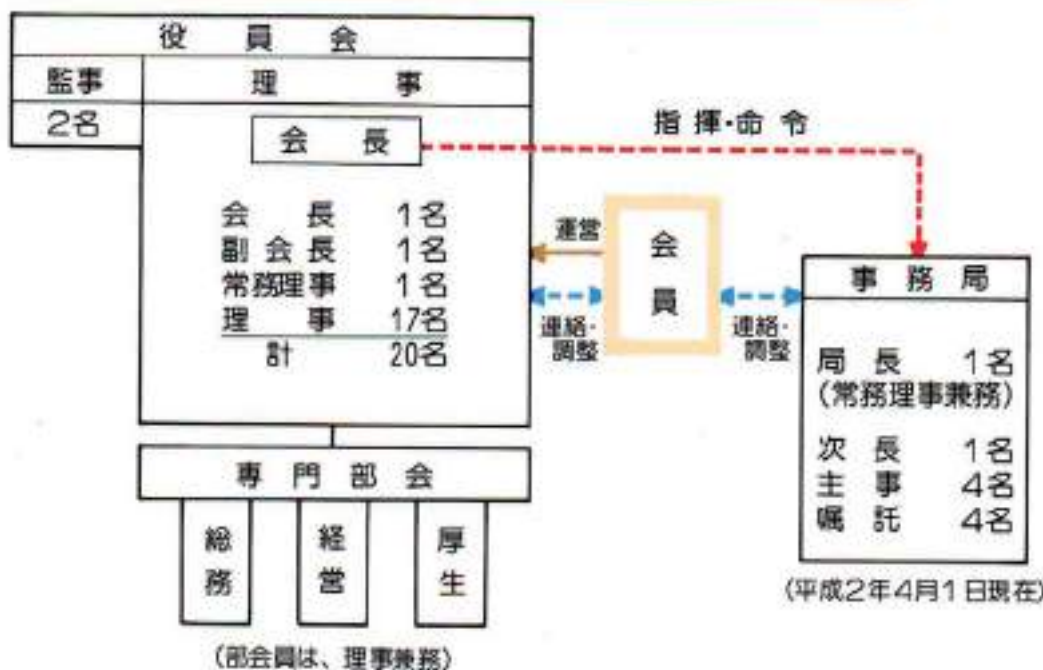


# シルバー人材センターの仕組み

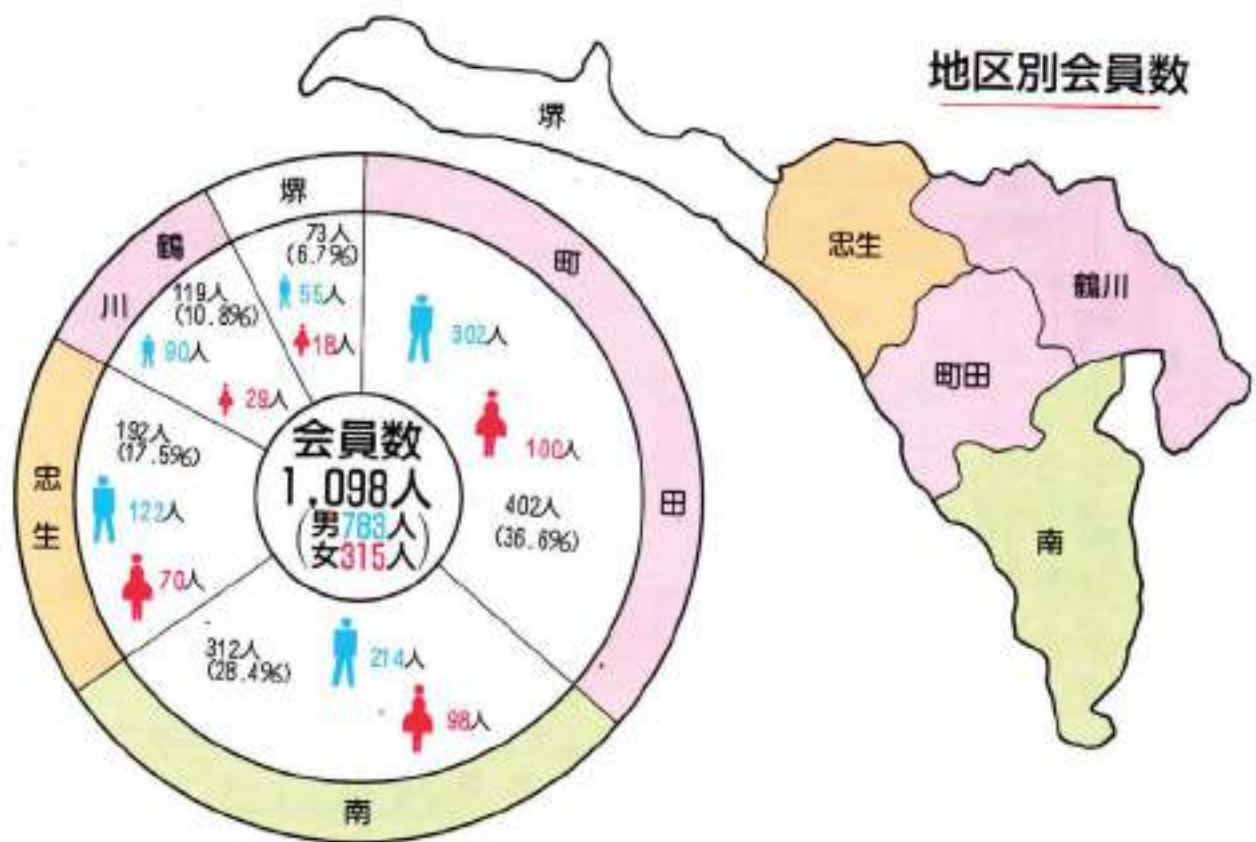
シルバー事業体系図



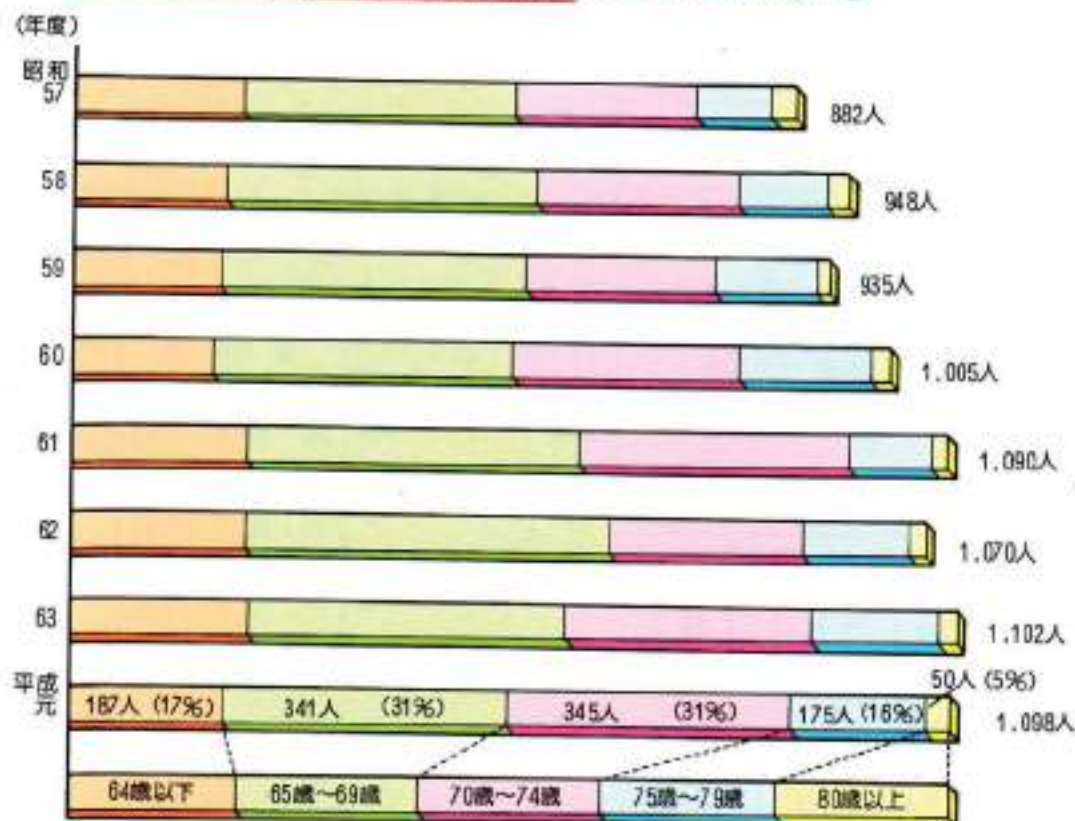
町田市シルバー人材センター組織図



# 地区別会員数/年齢構成



## 会員数の推移と年齢構成 “人生は60から”





# 10年のあゆみ

年月日	内 訳
(昭和)	(昭和54年度)
55.3.6	市民ホールにて設立総会開催〔会員856名、出席699名〕 ①定款・事業計画案及び就業規約案・配分金規約案原案どおり可決 ②役員選出(理事22名、監事2名)
	(昭和55年度)
55.5.1	事務所を原町田3-3より森野1-1-15に移転
" " 22	町田市体育館にて定期総会開催〔会員924名、出席736名(内選任届430名)〕
" 8.11	南地区会員の実態調査実施(参加122名)
" 10.25	市民ホールにて社団法人設立総会開催〔会員1,007名、出席769名(内選任届560名)〕
" 12.1	東京都知事より社団法人の許可あり
" " 8	社団法人の登記完了
56.1.16	会誌名を「銀輪だより」と決定し、第1号発行
" 2.9	全会員について意向調査実施
" 3.12	市民ホールにて定期総会開催〔会員957名、出席627名(内選任届393名)〕
	(昭和56年度)
56.4.1	シルバー人材センター団体傷害保険・同総合賠償責任保険に加入
" " 27	事務所に警備装置設置
" 8.3	全発注者へ「会員就労中の事故の処置」について協力依頼の書類発送
" 9.25	市民ホールにて定期総会開催〔会員885名、出席462名(内選任届292名)〕
" 10.21	「1,000人の祭典」運営委員会発足
" 11.2	全会員の実態調査実施
" " 27	町田市社協会館にて「1,000名の祭典(作品展示会)」開催(参加約2,600名)
" " 29	町田市の監査及び実地調査あり
" 12.21	町田市の監査及び実地調査あり
57.3.25	市民ホールにて定期総会開催〔会員866名、出席530名(内選任届325名)〕
	(昭和57年度)
57.9.25	忠生市民センターにて定期総会開催〔会員891名、出席492名(内選任届370名)〕
58.1.10	市厚生課による指導検査あり
" " 25	都・行政部による業務検査あり
" 2.17	会員研修旅行実施(宿泊・伊東温泉、参加74名)
" " 18	
" " 24	都・労政局による就業実態調査あり
" 3.15	木曾・山崎センターにて定期総会開催〔会員888名、出席479名(内選任届283名)〕
" " 16	全発注者(約1,000件)の意向調査実施
	(昭和58年度)
58.6.15	すみれ会館にて「女性懇談会」開催(講師/町田市社会福祉協議会 会長 谷 節能 氏、出席52名)
" 9.28	南農協会館にて定期総会開催〔会員928名、出席498名(内選任届325名)〕



## 10年のあゆみ

年月日	内 訳
58.12.27	設立5周年記念行事準備委員会発足
59.1.17 18	会員研修旅行実施(宿泊・熱海温泉、参加91名)
〃 〃 24	
〃 〃 25	設立5周年記念行事実行委員会発足 市・厚生課による指導検査あり
〃 3.16	忠生市民センターにて定期総会開催〔会員954名、出席527名(内選任届372名)〕
〃 〃 21	東京都防犯協会より感謝状受領
<b>(昭和59年度)</b>	
59.5.27	「銀齢だより」設立5周年記念「特別号」発行
〃 7.3 7	設立5周年記念行事「映画と講演会」開催(会場：金森、小山田、鶴川各老人福祉センター、すみれ会館、堺・木曾山崎センター・成瀬センター)
〃 〃 15	
〃 9.27	中央公園にて設立5周年記念行事「ゲートホール大会」開催 町田リサイクル文化センターにて定期総会開催〔会員1,002名、出席743名 (内選任届593名)〕
〃 10.29	市立体育館にて設立5周年記念行事「事業団まつり」開催(参加133名)
60.3.20	南農協会館にて定期総会開催〔会員947名、出席698名(内選任届520名)〕
<b>(昭和60年度)</b>	
60.9.30	木曾・山崎センターにて定期総会開催〔会員986名、出席763名(内選任届574名)〕
〃 〃 〃	緊急理事会開催(会長互選と顧問委嘱の件)
〃 10.1	新旧会長事務引継ぎ(林清美氏会長就任、小野寺克巳氏顧問就任)
61.1.28	市・高齢者福祉課による指導検査あり
〃 2.4	会員研修旅行実施(調布植物園、府中ランド 講師/市・厚生課長 矢口孝明氏、参加62名)
〃 3.19	鶴川市民センターにて定期総会開催〔会員1,011名、出席681名(内選任届539名)〕
〃 〃 28	市民ホールにて第1回安全研修会開催(講師/東京都養育院附属病院リハビリテーション診療課長 齊藤 宏氏、出席76名)
<b>(昭和61年度)</b>	
61.4.1	安全管理委員会規程、安全対策推進員運営要領、綱紀問題審議会規程施行 安全管理委員6名委嘱
〃 7.2	市民ホールにて「婦人の集い」開催 (講師/都庁・家島美代子主査、振興財団・芳村 力係長、出席92名)
〃 9.2	都・行政部による業務・会計検査あり
〃 〃 3	堺市民センターにて定期総会開催〔会員1,077名、出席794名(内選任届660名)〕
〃 〃 12	無料職業紹介指定申請
〃 11.9	第1回「室内レクリエーション」開催(会場：忠生第一小学校、参加105名)
62.1.21	無料職業紹介確認書受領



## 10年のあゆみ

年月日	内 訳
62.1.30	市・高齢者福祉課による指導検査あり
" 3.3	木曾・山崎センターにて定期総会開催〔会員1,096名、出席915名(内選任届721名)〕
" " 11 16	西友6Fにて職業相談開催(八王子高齢者無料職業紹介所共催)
	(昭和62年度)
62.6.24	市民ホールにて「婦人の集い」開催(講師/振興財団 次長 森田三朗氏、出席85名)
" " 26	(社)全国シルバー人材センター定期総会において、町田市 林会長、理事就任
" 9.28	南市民センターにて定期総会開催〔会員1,081名、出席803名(内選任届625名)〕
" 10.18	第2回「室内レクリエーション」開催(会場:忠生第一小学校、参加112名)
63.2.3	町田市制施行30周年記念刊行物全戸配布実施
" " 13	(就労実人数 男性312名、女性98名、計410名、配布部数110,052)
" " 17	都・労政局開発課長の現場調査あり
" 3.3	市立国際版画美術館にて定期総会開催〔会員1,085名、出席803名(内選任届580名)〕
" " 17	市・高齢者福祉課による指導検査あり
" " 28	市民ホールにて第2回安全研修会開催(講師/社会福祉法人 福音会 常務理事 小山五郎氏、出席84名)
	(昭和63年度)
63.5.17	企業向けパンフレット発送(郵送先約300事業場)
" " 26	理事による企業訪問
" " 7.13	
" 6.13	市内の委託先19カ所に「事業団連絡所」看板取付け
" 7.19	市民ホールにて「長寿を考える集い」開催(パネルディスカッション方式による。講師/元町田市社会福祉協議会会長 谷 節能氏、町田市高齢者福祉課係長 山田 稔氏、八王子高齢者無料職業紹介所長 池田 敏夫氏、町田市事業団 会長 林 清美氏、出席104名)
" 9.12	小田急線町田駅前にて宣伝活動実施(理事14名、班長5名、事務局職員2名参加)
" " 28	忠生市民センターにて定期総会開催〔会員1,111名、出席883名(内選任届655名)〕
" 10.16	第3回「室内レクリエーション」開催(会場:町田第四小学校、参加112名)
元 3.3	鶴川市民センターにて定期総会開催〔会員1,116名、出席890名(内選任届697名)〕
" " 29	市・高齢者福祉課による指導検査あり
" " 30	町田リサイクル文化センターにて第3回安全研修会開催(スライド"楽しく安全就業。"上映、出席152名)
	(平成元年度)
" 5.18	設立10周年記念行事実行委員会発足
" 6.1	牛乳パック再利用推進委員会要綱制定
" 8.18	町田市公民館にて、設立10周年記念行事「就業経験発表会」開催(発表者 男性4名、



# 10年のあゆみ

年月日	内 訳
元 9.27	女性2名、計6名、映画「風の色が見えた。上映、参加72名）
" " 29	成瀬センターにて定期総会開催（会員1,106名、出席843名(内選任届653名)）
" " 10.13	消費税課税事業所申請
" " 17	JR町田駅南にて宣伝活動実施（理事10名、班長他5名、事務局職員2名参加）
" " 11.26	明治公園における都主催の「就労フェスタ」に参加、牛乳パック再利用作業実演披露(11名)
" " 12.11	市・健康福祉会館にて、設立10周年記念行事「かくし芸大会」開催(出演 男性28名、女性14名、計42名、参加216名)
" " 31	市の刊行物(私の便利帖他)全戸配布実施(就労実人員、男性286名、女性94名、計380名、配布部数118,150)
2.3.2	木曾・山崎センターにて定期総会開催。主要議題 名称変更に伴う定款変更及び名誉会長(町田市長)の推挙提案〔会員1,102名、出席924名(内選任届712名)〕
" " 20	新町田市長 寺田 和雄氏に名誉会長委嘱
" " 23	東京都知事へ定款変更申請書提出
" " 29	市・健康福祉会館にて第4回安全研修会開催(講師/市警察署交通課 課長代理 石塚 克信氏、婦人警官 戸丸 万里子氏、警官 村上 義政氏による講演、交通安全映画上映並びに自転車安全運転の実演、出席95名)
" " 30	市・高齢者福祉課による指導検査あり

## 主な会議等の開催回数

理事会（昭和54年3月発足）

	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
任意団体	2	7										9
法人		2	8	8	12	9	13	10	13	10	11	96

専門部会（昭和56年4月発足）

	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
総務	3	2	5	4	9	7	6	3	6	45
経営	5	1	4	5	7	10	17	7	9	66
厚生	5	1	4	1	3	4	6	3	6	33

理事・班長合同会議（昭和55年4月発足）

	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
	4	4	2	1	2	2	3	2	5	0	27

理事・監事選考委員会（昭和55年12月発足）

	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
	3	4	3	5	5	3	6	2	5	0	36

安全管理委員会（昭和61年4月発足）

	61	62	63	1	計
委員会	5	2	2	2	11
パトロール	0	5	8	9	22

地域懇談会

	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
回数	1	4	4	0	0	0	6	18	12	21	66
人員	122	104	95	0	0	0	138	301	180	221	1,161

新入会員研修

	56	57	58	59	60	61	62	63	1	計
回数	9	8	8	7	10	11	11	12	12	88
人員	86	123	90	108	155	201	178	143	116	1,200

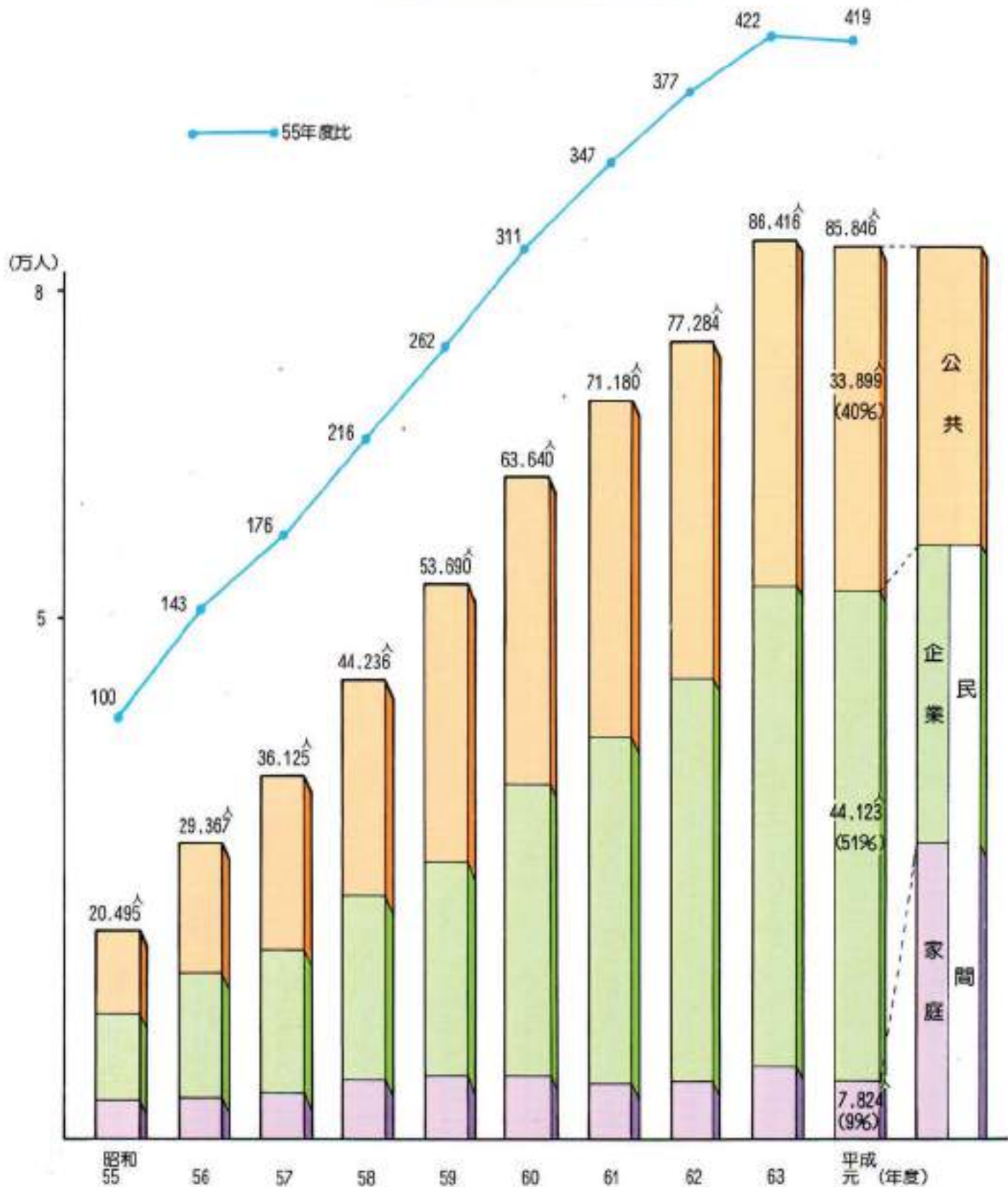
(注)平成1年度116名中114名入会



# 事業実績の推移

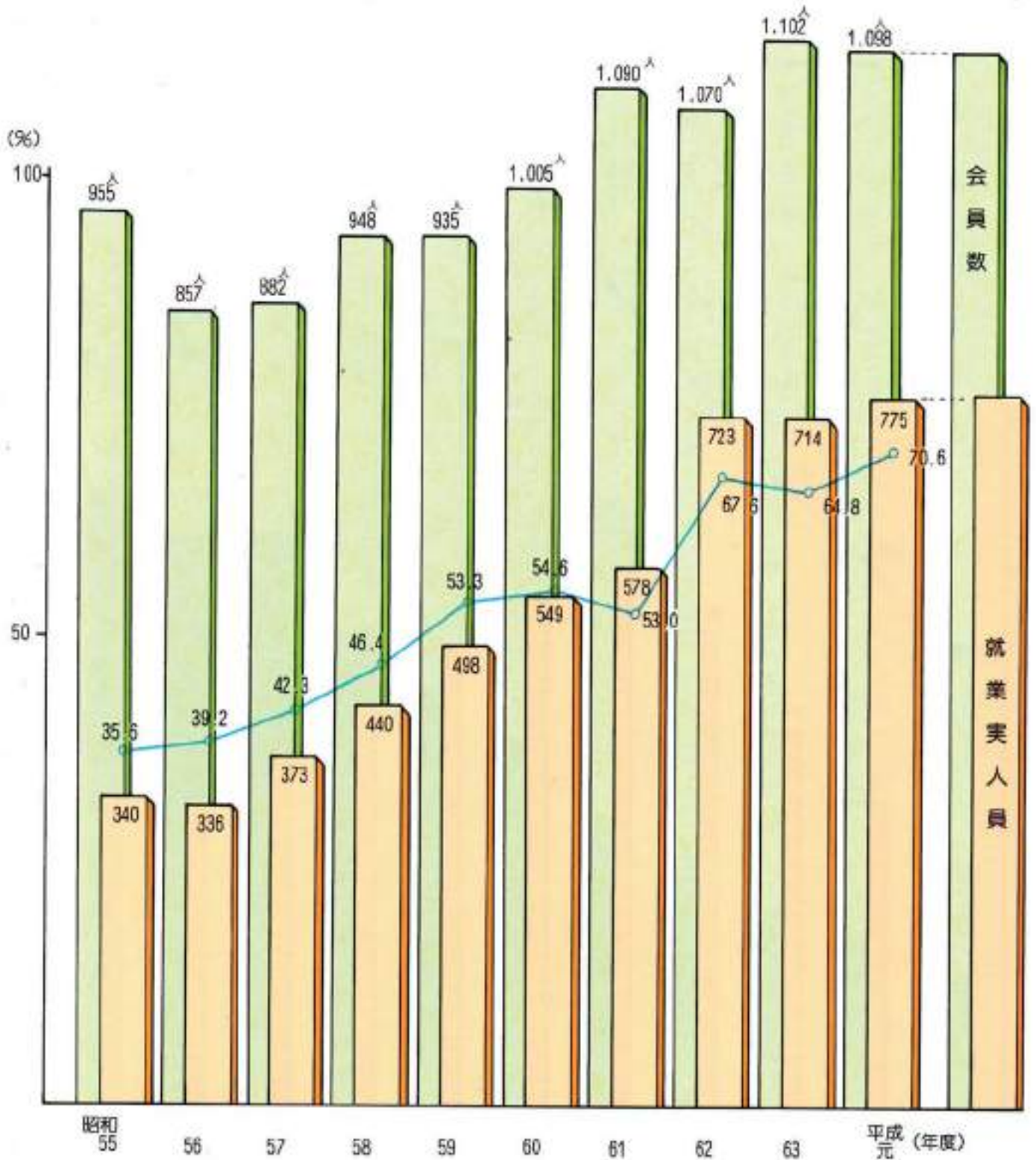
## 昭和63年度 8万人の大台突破

### 就労延人員



年ごとに向上、70%を超える

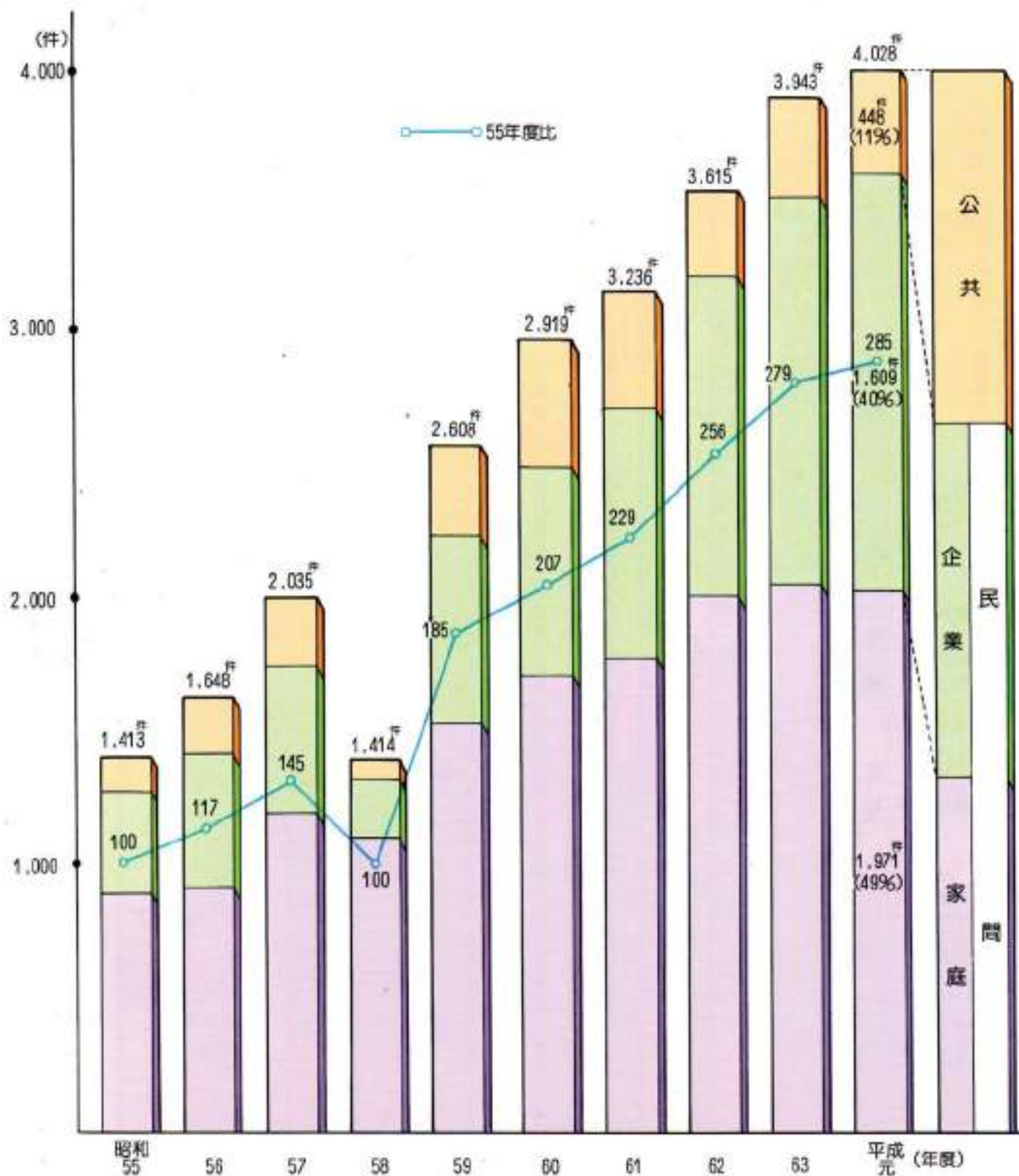
## 就 業 率





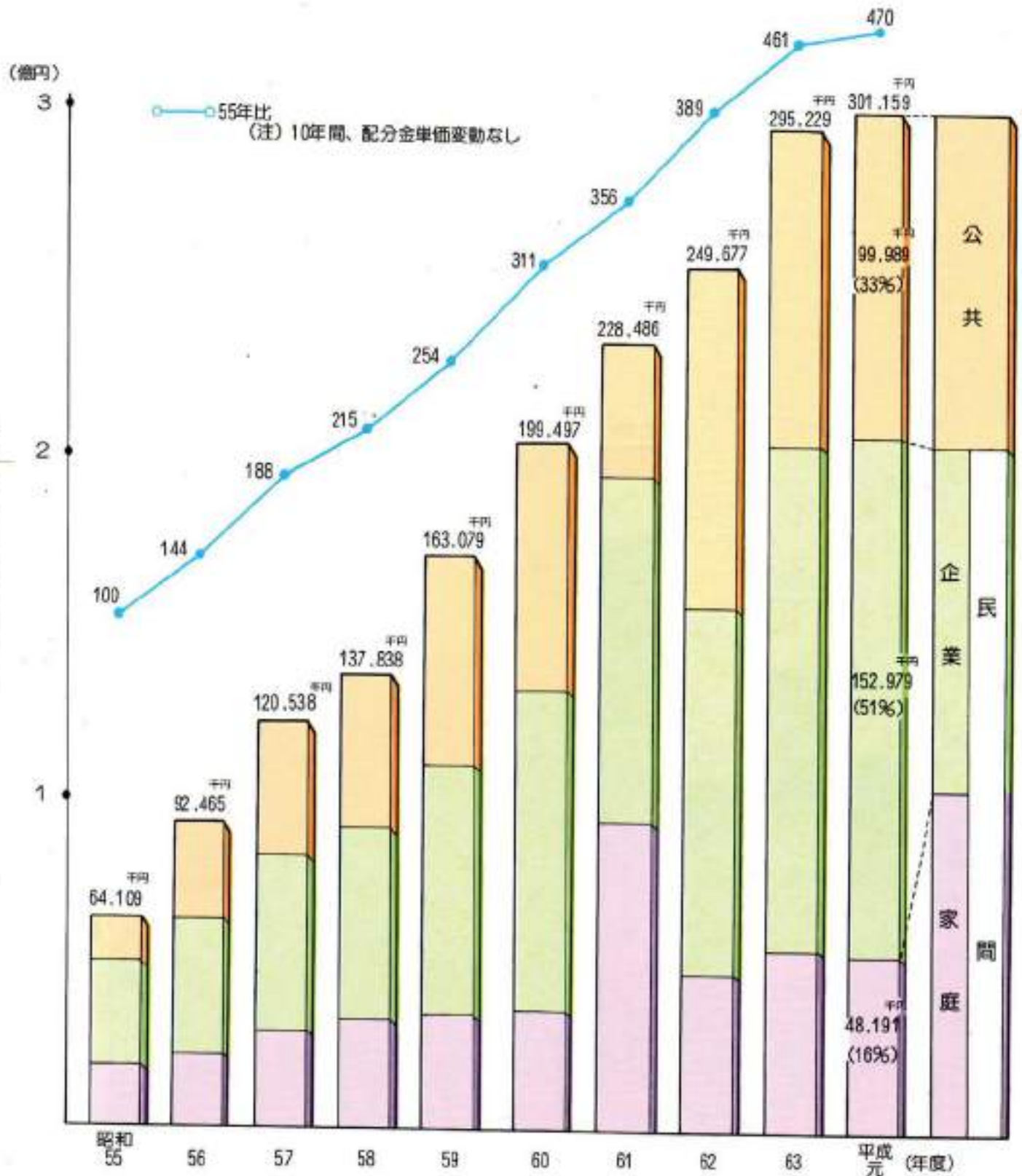
# 平成元年度、4,000件突破(公共11%,民間89%)

## 受託件数



# 平成元年度、3億円突破（公共33%，民間67%）

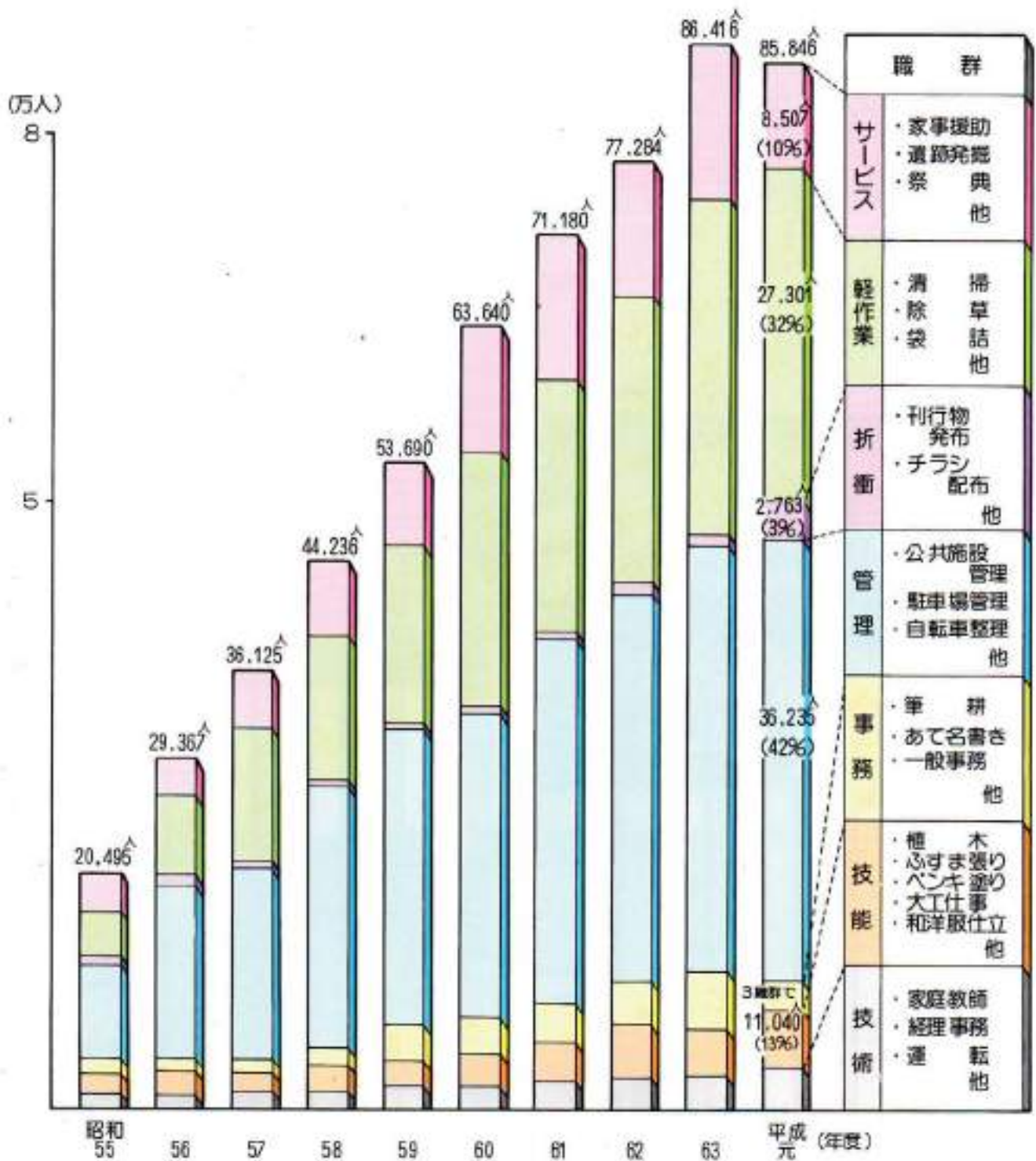
## 契約金額





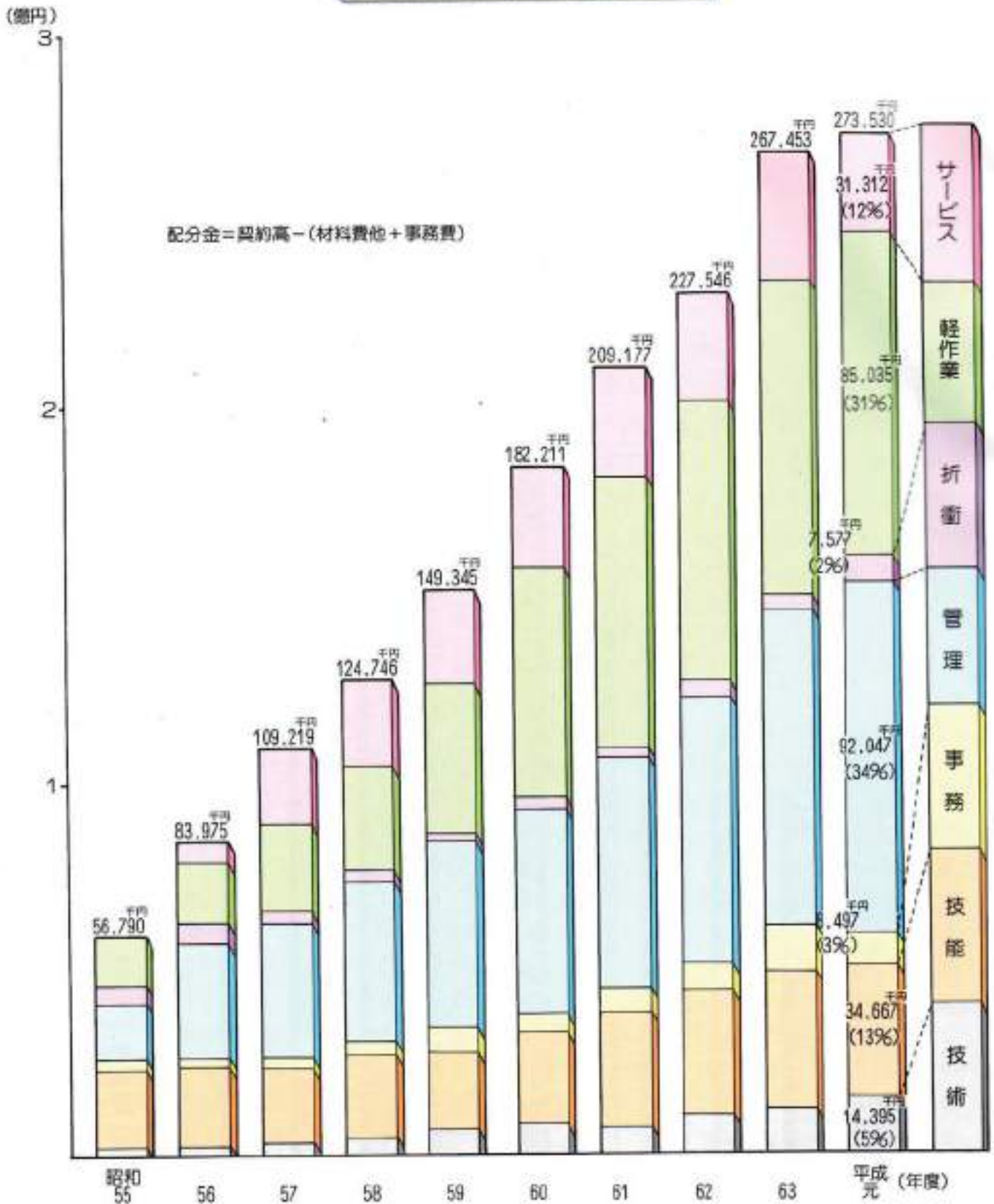
# 管理群、軽作業群が多い

## 職群別就労延人員



# 発注者のご協力と会員の努力の結晶

## 職群別配分金





# 写真でみる 会員の活動

## 会議・研修会



設立総会▶



◀定期総会

▼顧問会議



◀理事会



◀ 専門部会



▼ 婦人の集い



● 安全研修



▼ 地域懇談会



▼ 新入会員説明会





技

術

▲ 経 理 手 務



技

能



▲ 匠 師



▲ 植 木

▼ 塗 装



▶大工



▼和裁



事務

▼筆耕



▼刊行物処理



▶学校巡回



管理





▲駐輪場管理



▲駐車場管理



◀花壇手入れ

経 作 業

●除 草







▲身障者送迎

▼遺跡発掘



▲家事援助

▼家事援助(料理教室)



◀ゴルフ場就業



▶祭典



▼室内レクリエーション



● 1,000人の祭典 / 作品展示



◀ 会員研修旅行



# 独自事業(牛乳パック再利用) スタートまでのあゆみ

1989年11月、都庁は「東京都における地球問題への取り組み方針」を決め、その一環として、同年12月1日から全庁挙げて再生紙の利用を決めました。再生紙は上質紙と比べコストに変わりはなく、そのメリットは森林資源の保護とゴミの減量化にあると言われています。

町田市高齢者事業団の林会長はこれに先駆け、牛乳パックは上質のバルブであることに着目し、「高齢者の社会参加事業の一つとして、再生紙を事業団で利用出来ないか」と、1987年4月の理事会に諮り、積極的な調査が開始されました。

まず、同年5月、山梨県大月市の自主グループ「たんぼぼ」の平井代表を訪ね、牛乳パック再利用の「紙すき技術」について、江淵・岡本両理事と共に指導を受けました。

因みに、自主グループ「たんぼぼ」は、地域の主婦を中心に発展し、TVや新聞などのマスコミを通して全国に広がり、1985年6月には「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」が結成されました。以来、回収ルートの開発・情報交換・牛乳パックを利用した紙すき技術や普及活動などが活発に行われています。

さて、当事業団では、1988・9年の2年間、独自事業を目的に調査研究費に予算を計上して、牛乳パック再利用推進委員会を設置し、推進要綱もつくり、まず役員の名刺づくりからスタート。やがて年賀状、はがき、しおり、色紙、扇面と徐々にレパートリーを増やし、蓬(よもぎ)を煮出した液や大賀韭菜(ぐうし)館で頂いた紅花やししゅう糸を細かく切ってすきこんだり、技術の向上に伴って様々なアイデアが溢れるように生まれて来ました。

しかし、押し花をすきこむ技術などをマスターするまでには失敗も沢山ありましたが、その都度みんなで話し合い、試行錯誤を繰り返しながらも、常に創意工夫を忘れません

でした。また、所定の作業場がなく、場所を変えながらの落着かない作業、限られた調査研究費など、恵まれた条件とは程遠い環境の中で、平成2年4月から独自事業として立ち出来るまでに漕ぎつきましたのは、お互いが思いやりの心を持って協力し合い、情熱を持って努力して来た賜物だと思えます。

この独自事業は、未就業会員、女性会員、高齢者会員の確保と拡充や、資源の再利用活動を通して地域社会に活力をもたらし、会員の生き甲斐の充実と社会参加の推進を図り、また、牛乳パックの再利用と言う一連の作業の中で会員が協力し合って就業し、いろいろなアイデアを出して自己実現が可能な自主的な活動です。

なお、現在のメンバーをリーダーとした班組織を編成する目的で、毎月1回は参加者の養成日に当てて研修会を開いたり、公、私の団体、学童クラブ、老人ホーム、企業内の社会クラブなどへも出向いて、技術指導が出来るまでになりました。

独自事業を通して「教えることの喜びと、適度の緊張感を味わい、教えながら教わることも多い」と、技術指導に当たっている理事さんや会員さんの感想から意義のある社会参加がうかがえます。

シルバー人材センターの理念に合った事業として発展させてゆくために、一時的なブームで終わらせることのないよう、さらに研究工夫を重ねながら努力を続けなければならないと思っています。

(事務局 天野 記)



## 牛乳パックが“はがき、(手漉き)になるまでの工程



① 板状にしたものを表裏の2板にはがし、2~3等分にして水の中に2~3日漬ける。



② 取り出したパックをよくもみ、ラミネートについているパルプをなるべく薄く小さくはがす。



③ ミキサーを休ませながらパルプがドロドロになるようにかける。



④ 容器に6分目ぐらいの水を張り、ドロドロになったパルプを流し込む。(目安として、7ℓの水に卵大4倍を入れる)



⑤ 両手でしっかり押し持ち、溶液が6~7ミリの厚さになるよう均等に漉き込む。



⑥ パルプを漉き上げ、上枠を静かにはがす。



⑦ タオルを敷き、その上にネットが上になるように返して乗せる。



⑧ 両方の手のひらで静かに押し、水気を切る。



⑨ アイロンをかけて仕上げする。



忙しいが、  
楽しい作業の仲間たち。



# 10周年記念行事

町田市高齢者事業団設立10周年を記念して、過去の足跡を振り返り、1990年代への飛躍的発展への足掛りを見出すために、平成元年5月に発足した10周年記念行事実行委員会では、

次の諸行事を計画し、その都度、理事会の承認を得たうえで、各専門部会や委員会に移管して実施いたしました。ただし、記念事業は長期計画策定委員会で検討中です。

## 就業体験発表会・かくし芸大会・研修旅行 記念式典・記念事業

### 就業体験発表会

平成元年8月18日(金)、町田市公民館を会場に経営部会の主催で開催し、発表者は6名(男性4名、女性2名)、参加者は一般市民を含めて72名でした。初めての試みでしたが、入会前はそれぞれの専門分野で、戦後の苦しい、長い人生を生き抜いて来た会員が第二の人生

を託した事業団で、就業した作業についての生々しい体験談は、聴衆に深い感銘を与えました。紙面の都合上、ご発言の総てを披露できないのが残念ですが、発表者のお許しを頂いて、その要点を集約して記載いたします。

(発表順、敬称略)



#### 温かい人間関係

(塗装) 石井 小十郎

昭和63年8月、東京都主催・高齢者就業対策「タウンベインター講習会」に参加したことがきっかけで会員になりましたが、働くことを決意したのは年が明けてからでした。初仕事は、アパート外回り全部の塗り替えてした。リーダーの東さん(現理事)、現リーダーの並木さん他1名と私の4名がグループでした。講習をちょっと受けた名目だけの腕前ですから、ペンキの塗り方は勿論ですが、安全の面については、例えば脚立や梯子の使い方、昇り方下り方、高い所に上った時の作業、塗り立ての屋根の滑り易さなど、体験的に細かく、常日頃指導して頂いております。

風の強い日にアルミ製脚立が飛ばされて、屋根に取り残されたことがあります。私は下の人に助けられて、飛ばされた脚立での事故も発生せずすみしました。この時の幸運を片時も忘れないよう心掛けています。仕事は全員でやる仕事、2、3人でやる仕事など色々ありますが、この道ベテランのリーダーさんや先輩に教わったことを思い出しながら頑張っています。この仕事は、朝9時から午後4時までなので、朝夕は自分なりの仕事や趣味が出来るので大層気に入っています。今まで5ヵ月、毎月16日程度働いて、翌月の指定日に配分金を頂きます。半分は家計へ、半分は自分の小遣いです。しかし、配分金以上に有難く思うことは、この仕事を通じての掛け替えのない温かい人間関係です。





## 親切・丁寧を信条に

(襖) 青山秀夫

私はサラリーマンとして四十年来にわたって工作機械の仕事にたずさわり、機械を手掛けることが何よりの生きがいでありました。忙しい中、技能検定に挑戦して1級技能士の資格を得て、後輩の指導、技能に対する改善に力を入れて参りました。昭和62年現役を無事終了し、第二の人生へと駒を進めました。

事業団での私の仕事は表具で、現在6名で実施しています。内容は、襖、障子、壁装の張り替え、掛軸、びょうぶ、額などの製作です。当初は仕事以外にはお客様の接し方など戸惑う事も多く夢中でしたが、先輩のアドバイスに助けられながら、今日まで参りました。

一口に襖の張り替えといっても、骨の折れた襖もあり、お客様の負担を少なくしようと修理して差し上げる事もあります。出来上がった襖を敷居に納めた時に、お客様から「部屋が明るくなって見違えるようになりました」と言われますと、それまでの苦勞も忘れてしまいます。

知名度の少ない事業団の仕事について、市の広報を初め、NHKテレビの取材による、襖の受注から張り替え作業、お客様への納入までの放映、読売新聞等の二度にわたる報道など、大変感謝しております。地域の皆様の期待も大きく、親切さ、丁寧さを信条として応えていかねばならないと思います。仕事を通じて、地域の方々とのコミュニケーションの輪を将来に向けて大きく広げて参りたいと考えております。

## 誠意をもって

(家事援助) 中村 千鶴子



小学生や幼稚園児と暮らした教員生活の頃、定年後の構想は色々と練っていた筈なのに、いざ当事者となってみると何の答えも出ないまま、時がたち、ふと不安と心細さを感じ始めた頃、事業団の話を知りました。しかし、思う適所もないまま、半年が過ぎました。と、ある日、老化現象で半身不随の方と、突然の病魔に40代の若さで障害者生活を送らねばならなくなったお宅の家事援助の話が参りました。社会福祉事業の一端に協力出来るのであれば体当たりしてみようと考えました。後者の方は男性の一人住まいですから想像を絶する状態、保健婦さんも私が続くかと心配だったそうです。

これは変わらぬ人間愛、誠実さが要求される限りない自己との戦いの場にもなったのでした。

心を開いた会話を求められるようにしてあげなくてはと研修会にも出席し、他の方の状態を尋ねたり、戸惑いながらも疑問や障壁の解決に自信と誇りを持って真剣勝負する明け暮れてした。自分で出来ることは、例えば新聞の後始末や空缶の水洗いなど、簡単なことからお願いしました。実行されるようになるまで約1年、まさに根比べでした。今では私の来訪を待ち、笑顔を見せるようになり、色々と心の開かれた面も見えてきて、一条の光をみつけた思いで、喜びでいっぱいです。

私の大好きな「誠意」という言葉、誠意をもって対すれば必ず相手にも誠意は通じるという信念を強くいたしました。



## 心と行動で奉仕

(祭典) 仲重 満

私は重鉛ダイガスト企業に技術員として永年勤続し、やがて定年を迎え、過去の業績は歴史を飾るに過ぎない、大切なことは人生の経験を社会に還元することができたらとの思いから事業団に入りました。

今までの世界とは180度も違う、市の葬祭事業所のお世話になり、数々の葬祭用品、専門用語、宗派、しきたり、これらを薄くとも広く学び、心の準備をしました。儀式に立ち合いますから、服装、言葉づかい、立ち居振舞には気を配ります。

行政の看板を背負って、行政が福祉の一環として行う葬祭事業に従事する者として、良

くも悪くもそれは苦情あるいは感謝の形で役所に返っていきます。ご不幸に当たったの対応は、相手の方は初めての悲しい出来ごとであることを片時も忘れず、思いやりの言葉を添えることが大切と、常に自分に言い聞かせております。市民に接して生の声を聞きながら、心と行動で奉仕する緊張感で身も心も引きしめる思いです。「皆さん、ご苦労さま、大変お世話になりました」、こうした声が心の支えとなって今日までやってくることが出来ました。人生で最も悲しい場に接し、共に暗涙の流れるのを禁じ得なかったこともしばしばありました。この世に生あるものはいつの日か変わり果てて行く、こうしている一分一秒は二度と返っては来ない。大切にしなければと痛感いたします。人の最後をお世話させて頂くことに誇りをもって働いております。



## 通じ合う心

(管理) 水島 政一

ボイラーマンとして約40年勤めた醤油醸造会社を定年退職し、自分に合った仕事を求めて事業団へお伺いしたのは昭和59年7月のことでした。その時紹介されたのが、現在の自転車管理の仕事でした。その足で現場へ行き、事業団の先輩から「仕事の種類は変わっても一生懸命楽しくやりましょう」と励まされ、翌日から勤務することになりました。10名でチームを作り、朝は6時半から3～4名、夜は16時から2名の組み合わせで各4時間、月に12日から14日の勤務です。

冬の寒い日、風雪の日や真夏などは大変なこともあります、仕事はつらいとは思いま

せん。ただお客様が相手ですので、言葉遣いが大切です。「お早ようございます」「有難うございます」「お帰りなさい」など、最初はてれくさくて言えなかったのが、今では心から話しかけられるようになりました。お客様にもお馴染みが出来て、勤務の都合で数日逢わずにいと、「おじさんどうしたの」「やめたのかと思った」などと心配して声をかけてくれます。

また、私は地域班長を委嘱され3年目になります。年4回の「銀輪だより」と2回の定期総会通知の配布、1回の未就業会員の会費徴収の時は極力会員に接して、お話を聞くようにしています。未就労の方は積極的に事業団に出向いて、自分に合った仕事を探して下さい。皆様共ども健康に気をつけて頑張らうではありませんか。





## 散髪式草刈法

(除草) 友部 歌子

30有余年の教員生活に終止符を打って、事業団の一員となり、やがて10年を迎えます。過去は一切捨てて、これまでやったことのない仕事、やれなかった仕事に挑戦してみようと、チョークを鎌に持ち替えて除草班に入れて頂きました。初仕事場は何と背丈よりも高い萱の密生地でした。ピクピクしながらも自分が立って居られる場所を切り開いた時の喜びは今思い出してもゾクゾクします。真夏の街路や公園の仕事は楽ではありませんが、自分達の手で綺麗になった後の満足感は、この仕事をした人でなければ分からないでしょう。四季折々には大自然が美しい姿を見せてくれます。草の上に腰をお

ろして食べる弁当のおいしいこと。休みのひと時は楽しい会話がはずみます。

私自身も作業方法を色々と考えました。どうしたら骨を折らずに安全でしかも早く綺麗に仕上げることが出来るかと。そこで考え出したのが、自称「散髪式草刈法」なるものがあります。右手に鎌、左手に熊手を持って草を持ち上げ、一鎌入れたら熊手で掻き寄せます。こうすると、踏まれて折れ曲ったり、露に濡れて倒れた草で手を切る心配もなく、刈り残すこともなく綺麗に早く仕末が出来ます。

単純作業と言われている除草の仕事も、自分の取り組み方、眼の向け方、心の聞き方次第でもとても楽しいものです。若さとは年齢ではなく、心の持ち方のことでありましょう。人生に定年はありません。お互いに頑張りましょう。

## かくし芸大会

平成元年11月26日(日)、新設された町田市健康福祉会館を会場に、厚生部会の主催で開催されました。かくし芸大会にふさわしく、林会長ご自作の狂言で開幕。出演者は42名(男性27名、女性15名)。種目は、日本の伝統的古典芸能から流行のカラオケを使った歌謡曲に至るまで多種多様、会場いっぱいの会員とご家

族(計 216名)は、玄人(くろうと)はだしの熱演に終始拍手がっさい。おしどりご夫婦の共演や演者の楽器伴奏で、参加者全員が楽しく歌うという場面もあって、午前10時から午後4時まで、和気あいあい、楽しい一日を過ごすことが出来ました。





## 会員かくし芸大会プログラム

(敬称略)

No.	種	目	氏 名	No.	種	目	氏 名								
1	舞	踊	カッポレ	柳 下吉右エ門	19	舞踊と	奥飛田慕情								
2	歌	謡	曲	祝い船		歌謡曲		三 輪 保 川 マ サ							
3	民	謡	秋田もとすり唄	青 柳 愛	20	仕	舞	羽衣	多 田 六 郎						
4	吟	詠	道江裏を借りるの囃に謡す	須 崎 直 一	21	民	謡	さんさ時雨	松 沢 光 明						
5	歌	謡	曲	船頭小唄	鈴 木 秀 夫	22	吟	詠	川中島	串 間 弘					
6	舞	踊	都島	山 田 良 江	23	歌	謡	曲	命くれない	小美濃 栄 光					
7	歌	謡	曲	浪曲小守唄	清 水 伸 久	24	舞	踊	みだれ髪	沼 田 琴 江					
8	朗	読	と吟詠	胡隠君を尋ぬ	高 羊 礼 保	25	〃		十日町小唄	立 花 ナ カ					
9	歌	謡	曲	すきま風	佐 藤 利三郎	26	歌	謡	曲	みちづれ	山 波 安 則				
10	柴	笛	ふるさと	豊 田 国 英	27	舞	踊		安木節	能 見 忠 男					
11	舞	踊		無法松の一生	小 川 宗 明	28	〃		お座敷ワルツ	水 島 ヨ シ					
12	浪	曲		石松代参	相 沢 才 治	29	民	謡		八木節	鈴 木 秀 夫				
(昼食 11:30~12:30)								30	唱	歌	鉄道唱歌(全)	手 塚 知 子			
13	太	極	拳	岡 本 り さ	31	秘	芸	南京玉すだれ	高 橋 浜 吉						
				徳 永 瑛 子						〃 ア キ					
				渡 辺 嘉 矢						32	吟	詠	小唄の囃	岩 島 千 代 子	
				宮 本 節 子						33	歌	舞	伎声色	世話情浮名横笛	戸 田 勇
14	落	話		無限無	(当 日 欠)	34	ハ	ー	モ	二	カ	吹	奏	早春賦・あざみの歌	小 倉 政 章
15	歌	謡	曲	夜霧のブルース	宮 沢 正 康	35	謡	曲		鉢の木	藤 村 泰 三				
16	居	合	術		戸山流居合抜刀道	青 山 秀 夫	36	民	謡		南部牛追い唄	増 嶋 晋 市 郎			
17	謡	曲		舟辨慶	鈴 木 宝	37	歌	謡	曲	俵屋玄蕃	飯 塚 善 夫				
18	民	謡		十三の砂山	山 崎 正	38	舞	踊		花笠音頭	宮 本 ト ヨ				

## 研 修 旅 行

平成2年6月5日(火)、8時45分、市民ホール前出発時はあいにくの雨。旅行参加者総勢87名(男性57名、女性30名)は、東都観光のデラックスバス2台に分乗し、一路、目的地の奥多摩へ。八王子に入る頃には雨は上がり、「秋川谷・和紙の里」見学の際は雲間から薄陽も漏れる上々の天気。日本の名滝の一つ「弘沢(ほっさわ)の滝」では清々しい緑の山道をハイキングすること往復20分。落差60メートルの飛瀑に心洗われる思い。

お昼は武田の落武者の集落と言われる「数

馬の里」で、名物の山菜料理を賞味したあと記念撮影。午後のコースは都民の水の源、満々と水をたたえる「奥多摩湖」を右に左に眺めながら自然を楽しみ、湖畔で暫らく休憩。最後の見学地「吉川英治記念館」へ。

館内では大衆に親しまれた、文豪の遺品の数々を目のあたりにして、感嘆の声しきり。15時30分現地出発。帰りの車内ではカラオケが大活躍。会員相互の親睦を重ね、有意義だった研修旅行は、18時町田帰着で無事終わりました。





1号車



松沢の滝



吉川英治記念館

研修旅行での  
楽しいスナップ

2号車





平成2年6月23日(土)、屋外は気温30度を超える猛暑でしたが、公務ご多忙の中を、当事業団の名誉会長でもある、町田市長・寺田和雄様を初め、来賓多数のご臨席を頂き、会員386名(男性292名、女性94名)が出席して、健康福祉会館を会場に、当事業団設立10周年記念式典が挙行されました。

大志万副会長の「開会あいさつ」に引き続き、林会長が10年の経過の概要と将来の展望を含めて「あいさつ」し、来賓の方々からはそれぞれの立場で「お祝いと温かい励ましのお言葉」を頂戴いたしました。

ご祝辞/町田市長 寺田和雄様、町田市議会副議長 茂木あけみ様(八木議長代理)、東京都議会議員 渋谷守生様、東京都労働経済局高齢者対策室就業開発課長 小野俊郎様(労働経済局長代理)、(財)東京都高齢者事業振興財団専務理事 中納 肇様。

なお、急用でご欠席の東京都議会議員 谷口卓三様からのメッセージを、司会の武田事務局長が代読。引き続き次の来賓を紹介し、祝電が披露されました。

町田市助役 牧田秀也様、町田市福祉部長 浅沼 尚様、同高齢者福祉課長 飯田 朗様、町田市在宅福祉サービス公社常務理事 大貫通様、町田市町内会連合会会長 高野 孝一様、

町田市老人クラブ連合会会長 武村研自様、東京都労働経済局高齢者対策室課長補佐 西田勝年様、(財)東京都高齢者事業振興財団管理係長 千葉国雄様。

祝電/東京都議会議員 河合秀二郎様、(社)全国シルバー人材センター協会会長 関 英夫様、(社)大阪府箕面市シルバー人材センター理事長 増井勝次様。

次に功労者表彰に移り、江洵理事が披表彰者のご氏名を読みあげ、3期6年以上勤続の役員22名、班長14名、10年間毎年就業の会員35名、10年勤続の職員3名、それぞれの代表者、小野寺克巳様、星野金次郎様、吉武三雄様、松田良蔵様に対し、林会長から表彰状と記念品が贈られました。(受賞者のご氏名は、48頁の受賞者名簿参照)

最後に谷理事が会員を代表し、謝辞と決意の「閉会のことば」を述べ、午後2時10分から1時間20分にわたった式典は、盛会裡に無事終了いたしました。

なお、式典終了後、10分間休憩し、「東京寄席芸能」によるアトラクション<sup>®</sup>松旭齊一二三氏の奇術と元祖南京玉すだれ、神田来山氏のお笑い講談(出世豆腐)。を楽しみ、16時30分幕を閉じました。







# 広 報

## 機関誌 “銀齢だより”



機関誌 “銀齢だより”

## “銀齢だより” 発行回数

年度	昭和	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成	元	計
回数	1	9	8	9	4	10	5	5	5	5	6	62	

### ●ご協力いただいた報道機関●

(1) 町田市広報 “まちだ”





# 広 報

## ② 新聞各紙



(あいうえお順)

朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、  
武相新聞、読売新聞

## ③ テレビ

NHKテレビ (関東ネットワーク)  
フジテレビ (あなたの東京)

## ④ ラジオ

FM埼玉  
ラジオ日本



市内街頭のPR

# 事務局

事務局は、センターの総ての業務の窓口であり、センターの顔と言っても過言ではありません。とくに発注者と会員を結ぶ、重要なパイプの役目を果さなければならぬだけに、センターの職員には高度の判断力と果敢な実

行力が要求されます。

現在、常務理事兼務の事務局長、次長ほか主事4名(うち女性1名)嘱託女性職員4名、計10名が、明確に定められた役割分担に従って全力投球、膨大な仕事を処理しています。



改築が決まった、思い出の事務所

40

事務局

## 編成

(敬称略)

氏名	役職	採用
武田 太郎	事務局長 (兼常務理事)	昭和61.5.16
松田 良蔵	次長	" 55.4.1
高須 政則	主事	" 55.3.6
天野 美佐子	"	" "
大澤 昌正	"	" 57.7.1
花上 学	"	" 61.4.1
森 和子	嘱託	平成元.4.1
淵本 洋子	"	"
佐藤 紀子	"	" 2.4.1
和出 建子	"	"



執務風景



# 任期一覽

## 役員

(敬称略)

名誉会長 (町田市長) ———— 専務理事 ———— 監事 ————  
 会長 ———— 常務理事 ———— 顧問 ————  
 副会長 ———— 常任理事 ———— 相談役 ————  
 理事 ————

氏名	年度	昭和54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元
大下勝正	名誉会長	3/6	12/1									3/8
小野寺克巳	会長							9/30				
水野克巳	常務理事		4/15									
林清美	専務理事						9/30	9/30				
飯尾絢子	常任理事									9/30		
岡崎芳雄	理事						5/14(死去)					
小田中英太郎	理事											1/28(死去)
垣見重三	常務理事											
高木憲	理事											
武村研自	理事											
田中由栄	理事											
谷節能	理事											
服部愛子	理事											
古川詳	理事											
古川久人	理事			5/26(死去)								
茂木則男	理事					7/14(死去)						
森下孝作	理事		4/15									
柳川孝二	専務理事								5/31			
山本政吉	理事											
山田保治	理事		4/15									
横谷豊吉	理事											
浅沼尚	理事					(市・福祉部長)				10/1		
池田敏彦	理事					(市・厚生課長)						
五味英明	理事						9/11(死去)					
斉藤キフ	理事											
岩内三郎	理事					2/28(死去)						
杉山栄男	理事											
山内喜久恵	理事											
中嶋万喜	理事					3/16	9/30		5/31			

# 役員

名誉会長 (河田市長) —— 専務理事 ..... 監事 ——  
 会長 —— 常務理事 —— 顧問 - - -  
 副会長 —— 常任理事 ..... 相談役 - - -  
 理事 ——

氏名	年度	昭和54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元
大志万 心 つ										9/30		
坂 爪 昇												
鈴木 典 次												
鈴木 富美子						12/1(転居)						
高 木 勉								3/3(死去)				
山 田 龜 三												
池 田 三 三						3/16						
磯 村 子工ノ						3/16						
大塚 和 重										9/30(市・福祉部長)		
金子 好 雄										9/30(市・厚生課長)		
戸 田 男							9/27					
近 間 延 子												
太 田 清 一												
永 井 勇 作												
山 崎 正 夫												
矢 口 孝 明								10/1		9/30(市・高齢者福祉課長)		
溝 井 寿 男								10/1				
江 刈 秀 子												
岡 本 り さ												
小 藤 春 生												
鳥 田 正 直												
武 田 太 郎									9/3			
永 島 栄 良												
平 岡 集 吉												
飯 田 朗										(市・高齢者福祉課長)10/1		
淺 石 巖												
岡 野 勲												
角 藤 全 一												
東 要												
宮 下 恒 一												
寺 田 和 雄												(町田市長)3/20



# 地域班長

(敬称略)

氏名	任期 地域名	昭和				平成 1
		56-57	58-59	60-61	62-63	
吉田 武	町田					9/30
山本 節子	"					
田種 鈴子	"					
坂爪 昇	"					
星野 金次郎	南					
乙部 俊爾	"					
古木 伊勢三	"					
江沢 三郎	鶴川					
大久保 正夫	"					
山田 亀三	忠生					
堀江 しづ	"					
周東 昌一	堺					
鈴木 典次	"					
中西 功	町田					
東 要	忠生					
山崎 正夫	堺					
安西 泰明	"					
長谷川 富雄	鶴川					
大用 藤吉	堺					
宮下 恒一	町田					
水鳥 政一	"					
桃原 良規	"					
平原 葉男	"					
近藤 毅	"					
佐藤 茂美	"					
斎藤 敏夫	"					
宮島 貞次郎	南					
海老沼 信一	"					
梅野 正二	"					
井野 成明	"					
中西 信一	"					
石原 朋好	"					

氏名	任期 地域名	昭和				平成 1
		56-57	58-59	60-61	62-63	
栗原 友四郎	鶴川					
須崎 直一	"					
中村 和夫	"					
阿部 喜代作	忠生					
須田 康之助	"					
満山 勝美	"					
深沢 正彦	"					
斉藤 秀成	町田					
大塚 邦信	"					
市川 昌弘	"					
前沢 英夫	"					
和田 俊男	"					
長谷川 清	"					
井上 俊一郎	"					
大谷 操男	南					
石山 重高	"					
増馬 喜市郎	"					
山崎 正	"					
緑川 展男	"					
上神谷 政美	"					12/31
齐当 直康	鶴川					
小川 欽也	"					9/30
村田 幸雄	"					
田畑 六衛	"					
野口 澄	忠生					
宇野 浅治	"					
薄井 善之助	"					
若林 文夫	"					
大島 初治	堺					
沖垣 鄭	町田					12/1
計		名 13	名 11	名 11	名 29	名 40

# 職 群 班 長

(敬称略)

氏 名	年度 職群名	昭和				平成
		56-57	58-59	60-61	62-63	1
浅川 照彦	監視					
大志万 むつ	和裁					
高木 勉	学校					
鈴木 富美子	家援					
須田 康之助	フスマ					
東 要	塗装					
山崎 正夫	配布					
浅原 岩太郎	外務					
安藤 福衛	管保					
江 測 秀子	家援					
太田 清一	植木					
久住 徳 嗣	駐車					
渋谷 きよ	家事					
鈴田 直光	屋外					
田辺 義裕	〃					
戸田 勇	筆耕					
鳥海 まさ	和裁					
中島 八太郎	駐股					
永野 徳 信	管小					
永野 筆子	屋外					
林 治一	自転					
本部 泰	運転					
射越 義一	除草					
市川 仁三郎	清掃					
岡本 りさ	家事					
尾野 吉 範	管理					
開発 晴夫	除草					
久保 三 郎	駐車					

氏 名	年度 職群名	昭和				平成
		56-57	58-59	60-61	62-63	1
黒沢 桃代	和裁					
鶴田 五郎	筆耕					
平岡 集吉	管一					
平本 良雄	外務 除草					
目黒 正	遺跡					
山口 金蔵	植木					
秋山 まち	和裁					
岩島 千代子	祭典					
宇野 浅治	駐車					
太田 定子	和裁					
大谷 操 男	事務					
岡野 勲	学校					
加藤 醇	福祉					
国江 俊夫	事務					
小林 保	施管					
坂本 高一	駐車					
佐々木 守	住宅					
須崎 和夫	遺跡					
土田 新松	自転					
友部 歌子	除草					
堀江 しづ	清掃					
松野 兼吉	運転					
宮本 喜久代	家援					
山下 りく子	家事 家援					
山本 英四郎	外務					
和田 俊 男	清掃					
国貞 憲治	学校					
計		7名	16名	17名	25名	7名



# 理事・監事選考委員会委員

(敬称略)

氏名	任期	昭和 55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元
岩内三郎		56.1.27									
星野金次郎		"									1/23
近間延子		"									
広波静		"									
宇野正二		"									
水野克巳		"									
横谷豊吉		"									
飯尾絢子		"							9/27		
茂木則男		"			7/1(死去)						
池田敏彦		"									
林清美		"									
五味英明				10/19							
岡崎芳雄				"		5/1(死去)					
小田中英太郎				"							1/28(死去)
吉田武				"							9/30
江沢三郎				"							1/23
山田亀三				"							
鈴木典次				"		7/26					
武村研自				"							
中嶋万喜						6/24					
東要											1/23
山崎正夫										8/1	
安西泰明											
柳川孝二											
溝井寿男											
武田太郎											
大志万むつ									9/28		
江渕秀子										9/2	
坂爪昇										9/2	
大塚邦信											1/24
梅野正二											"
栗原友四郎											"
満山勝美											"
大島初治											"

# 安全管理委員

(敬称略)

(委員長 — 委員長補佐 — 委員 —)

氏名	任期	昭和 61	62	63	平成 1
中嶋万喜		<span style="color: #FF69B4;">—</span>			
山崎正夫		<span style="color: #ADD8E6;">—</span>	<span style="color: #FF69B4;">—</span>	<span style="color: #FF69B4;">—</span>	
鈴木典次		<span style="color: #FFFF00;">—</span>			
射越義一		<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	
本部泰		<span style="color: #FFFF00;">—</span>			
山口金蔵		<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	
武田太郎			<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	
永島栄良			<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	
松野兼吉			<span style="color: #FFFF00;">—</span>	<span style="color: #FFFF00;">—</span>	
坂爪昇					<span style="color: #FF69B4;">—</span>
角藤金一					<span style="color: #FFFF00;">—</span>
石原雅典					<span style="color: #FFFF00;">—</span>
計		6名	6名		6名

# 安全推進委員 (年度別・順不同) (敬称略)

氏名	任期	昭和 61	62	63	平成 1
阿部寅		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
石阪宥		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
近藤毅		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
周東昌一		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
白岩寛		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
間島確信		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
中島八太郎		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
深沢正彦		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
鈴木哲子		<span style="color: #9ACD32;">—</span>			
小林保治			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
宇野浅治			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
土田新松			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
佐々木守			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
岩島千代子			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
岡野勲			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
友部歌子			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
須崎和夫			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
加藤醇			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
和田俊男			<span style="color: #9ACD32;">—</span>	<span style="color: #9ACD32;">—</span>	
大塚邦信					<span style="color: #9ACD32;">—</span>
鈴木竹次郎					<span style="color: #9ACD32;">—</span>
平本良雄					<span style="color: #9ACD32;">—</span>
山田正満					<span style="color: #9ACD32;">—</span>
米本昭二					<span style="color: #9ACD32;">—</span>
計		9名	10名		10名



# 受賞者名簿

(敬称略)

注] (役): 役員、(会): 会員

## 振興財団から感謝状を贈られた方

年月日	氏名
62.3.3	小野寺 克巳(役)
平成 元.3.3	飯尾 絢子(役)、小田中英太郎(役)

## 表彰された方

年月日	氏名
56.3.12	古川 詳(役)、水野 克巳(役) 横谷 豊吉(役)、沖 周三(会)
56.9.25	古川 久人(役)、横谷 豊吉(役)
58.3.15	垣見 重三(役)、斉藤 フキ(役) 高木 憲(役)、田中 由栄(役) 服部 愛子(役)
58.9.28	岩内 三郎(役)、五味 英明(役) 茂木 則男(役)
59.9.27	岡崎 芳雄(役)
60.9.30	小野寺 克巳(役)
61.3.19	高木 勉(役)
62.3.3	磯村 子工ノ(役)、杉山 秀男(役) 鈴木 豊次(役)、中嶋 万喜(役)
平成 元.3.3	飯尾 絢子(役)、小田中英太郎(役) 山崎 正夫(役)

## 感謝状を贈られた方 (設立5周年記念)

年月日	氏名
60.3.20	小野寺 克巳(役)、飯尾 絢子(役) 小田中英太郎(役)、武村 研自(役) 谷 節能(役)、林 清美(役) 柳川 孝二(役)、山本 政吉(役)

## 感謝状を贈られた方

年月日	氏名
62.3.3	永井 勇作(役)
平成 元.3.3	小藤 春生(役)、永島 栄良(役)

## 80歳以上の就業経歴者で表彰された方

年月日	氏名
58.3.15	青木 儀一郎(会)、沖 周三(会) 小林 誠(会)、下村 功一(会) 高垣 利一(会)、中西 正一(会) 西村 千代(会)、荻野 留吉(会) 吉武 三雄(会)、
59.3.16	佐々木 宏(会)、須崎 晴次郎(会) 鈴木 義太郎(会)、中山 ナオ(会)
60.3.20	山内 久(会)、
61.3.19	伊藤 きね(会)、相馬 平三郎(会) 早見 丑次(会)、早見 せん(会) 水野 克巳(会)、
62.3.3	佐原 輝雄(会)、佐藤 助蔵(会)
63.3.3	猪島 六郎(会)、大野 五十鈴(会) 菅 ヒサノ(会)、清野 友吉(会) 小山 正一(会)、鳥居 正義(会) 細田 いち(会)、堀川 ヨシ(会) 茂木 辰男(会)、吉田 はる(会)
平成 元.3.3	井野 成明(会)、大隅 純一(会) 小笠原与兵衛(会)、小野江 義之(会) 高橋 浜吉(会)、竹中 明廣(会) 田中 阿摺(会)、谷崎 準次郎(会) 松浦 繁義(会)、山田 清一(会) 山田 達雄(会)、山本 英四郎(会)
平成 2.3.2	江沢 三郎(会)、小川 貞夫(会) 河本 喜久枝(会)、菅 シズ(会) 小福田 租(会)、竹田 与惣吉(会) 宮坂 嵩(会)、山本 友一(会) 山本 政吉(会)、

## 記念品を贈られた方

年月日	氏名
56.3.12	平野 清(会) [機関誌名称募集一位]
59.3.16	貝原 京子(会) [5周年記念ポスター募集一位]

# 受賞者名簿

(敬称略)

注] (役): 役員、(班): 班長、(会): 会員、(職): 職員

## 表彰された方 (設立10周年記念・平成2.6.23)

飯尾 詢子	役
磯村 チエノ	役
大志万 心つ	役
太田 清一	役
小野寺 克巳	役
斉藤 キフ	役
坂爪 昇	役
鈴木 典次	役
高木 憲	役
武田 太郎	役
武村 研自	役
田中 由栄	役
谷 節能	役
近間 延子	役
戸田 勇	役
中嶋 万喜	役
林 清美	役
服部 愛子	役
溝井 寿男	役
柳川 孝二	役
山内 喜久恵	役
山本 政吉	役

計 22名

安西 泰明	班
江沢 三郎	班
乙部 俊爾	班
須田 康之助	班
周東 昌一	班
射越 義一	班
鶴田 五郎	班
中西 功	班
東 要	班
平本 良雄	班
星野 金次郎	班
堀江 しづ	班
山本 節子	班
吉田 武	班

計 14名

天野 ヤス	会
石川 文江	会
市川 仁三郎	会
井野 成明	会
大野 五十鈴	会
岡本 みち	会
岡本 隆三	会
小笠原 与兵衛	会
樹下 勇	会
清野 友吉	会
小福田 租	会
近藤 毅	会
斉藤 清治	会
佐藤 邦之助	会
佐藤 繁雄	会
佐藤 誠一	会
清水 好友	会
杉浦 正子	会
鈴木 宝	会
鈴木 竹次郎	会
須田 富美子	会
高橋 利夫	会
武川 喜美子	会

竹前 力夫	会
田中 セルヨ	会
戸部 三郎	会
西永 俊雄	会
星野 チヨ	会
水島 ヨシ	会
水野 克巳	会
宮島 貞次郎	会
山口 金蔵	会
山田 梅子	会
湯本 佐	会
吉武 三雄	会

計 35名

松田 良蔵	職
高須 政則	職
天野 美佐子	職

計 3名



# 設立10周年記念行事関係者名簿

(敬称略)

注] ◎：部会長 ○：部員

## 理事会・専門部会 (総：総務、経：経営、厚：厚生)

氏名	所属部会			氏名	所属部会			氏名	所属部会		
	総	経	厚		総	経	厚		総	経	厚
会長 林 清美				岡本りさ		○	○	東 要		○	
副会長 大志万 むつ	◎			坂爪 昇			◎	宮下恒一	○		
常務理事 武田 太郎				島田正直	○			森下孝作		○	○
浅石 巖		○		角藤 金一		○	○	柳川孝二		○	
江洲 秀子	○			武村 研自	○			市・福祉部長 浅沼 尚			
太田 清一		◎		谷 筋能	○			市・高齢者福祉課長 飯田 朗			
岡野 勲	○		○	戸田 勇	○		○				

(以上20名)

## 実行委員会

林 清美(長)、大志万 むつ(副)、武田 太郎(副)、坂爪 昇、戸田 勇  
(以上5名)

## 長期計画策定委員会

実行委員会委員 林 清美(長) 他実行委員会委員4名、

江洲 秀子、岡野 勲、沖垣 鄭、大谷 操男、鶴田 五郎  
(以上10名)

## 記念誌編集委員会

戸田 勇(長)、浅石 巖、角藤 金一、宮下 恒一 (以上4名)

## あ・と・が・き

まず初めに当事業団設立10周年に当たり、お忙しい中、有難いご祝辞と激励のお言葉を頂きました関係各団体代表の方々に、心からお礼を申し上げます。

また、写真の提供・撮影などご協力下さった方々には、厚くお礼を申し述べます。なお、一部については紙面の都合上、割愛させて頂きました。どうぞご了承下さい。

さて、設立10周年記念行事の一つとして、実行委員会での発行が決められた記念誌の内容については…、①会員の努力の足跡を出来るだけ多く記録する。②10周年記念行事を含める。③出来る限り見易いものにする。以上の3点を編集の基本線として資料の収集、図表の作成などに努めました。10年間の尊い汗の歴史の重みは想像を超え、限りある紙面で後世に残すことは到底不可能であることを痛感いたしました。

しかし、わが国の本格的な高齢化社会が憂慮される21世紀を10年後にひかえ、名称も「シルバー人材センター」と改められた1990年と言う意義のある年に、当センターの10周年記念誌を発行できることは幸運だと思います。また、関係各位のご参考にもなり、今後の基礎資料として多少でもお役に立てば、これに過ぎる喜びはありません。

不備な箇所、お見苦しい点は、不慣れな編集者の責任であり、お許しただければ幸いです。

編集委員会

### 設立10周年記念誌 銀 齢

発行日 1990年(平成2年)9月28日  
編 集 10周年記念誌編集委員会  
発 行 社団法人  
町田市シルバー人材センター  
〒194 東京都町田市森野1-1-15  
TEL 0427-23-2147-8  
FAX 0427-24-0407



